

■酒井忠義 小浜藩主。転変の後、京都所司代に再任、安政の大獄発端づくり、和宮降嫁実現に奔走するも、失脚。

さかいただあき

浮世床・・・1813＝ 京都二条所司代邸で、_小浜藩主で京都所司代を務める酒井忠進の六男に生まれる。

水野忠成老中1818＝ 5歳：

膝栗毛終・・・1822＝ 9歳：

富嶽三十六景1831＝18歳： 11代小浜藩主忠順の養子となり、

高島砲術・・・1834＝21歳：_家督を継いで、12代藩主となった。

大塩平八郎乱1837＝24歳：

勅進帳初演・1840＝27歳：若狭守、

天保改革弾圧1842＝29歳：_奏者番兼寺社奉行となり、
順天堂始・・・1843＝30歳：*京都所司代に任じ、

阿部正弘首座1845＝32歳：

北斎没・・・1849＝36歳：
国定忠治磔・1850＝37歳：*辞任。功により帝鑑間詰から溜間詰格に進められる。

ペリー来航・1853＝40歳：

安政大地震・1855＝42歳：*小浜藩用達らの京都町人が敦賀-湖北間の運河(川幅を拡げ、一部は陸連による)の開削を申請したことに対し、幕府は彦根藩に極秘裡にこれを許可。同藩はこれを偵知し、領内宿駅の衰微を理由に反対したが、
蕃書調所・・・1857＝44歳：_開通の運びとなった。彦根藩は運河の企画の背後に忠義のあることを知り、藩主井伊直弼は忠義を快しとせず、両者の融和を欠く原因となる。

五ヶ国条約・1858＝45歳：_所司代に再任、無断条約調印の弁疏に上京した老中間部詮勝とともに井伊大老の命を受け、志士を弾圧して安政の大獄を起したが、忠義は志士の検挙には穏便論を、4公の処分には寛典論を唱えた。ついで和宮の將軍徳川家茂への降嫁実現に奔走し、

桜田門外変・1860＝47歳：_功により役知2万石に増され、従四位上左近衛権少将に叙任され、
生麦事件・・・1862＝49歳：*さらに1万石を加増されたが、いくばくもなく浪士の伏見屯集には為す術もなく、島津久光に名を成さしめ、所司代罷免により帝岳間詰に復した。朝権の伸張により、所司代在職中の罪を問われ、加増の1万石を削られ、隠居を命ぜられて家督を同族忠欽の三男忠氏に譲ったが、追罰されて豊居に処せられた。

大政奉還・・・1867＝54歳：
明治維新・・・1868＝55歳：_忠氏が朝召を辞して罪に問われたので入京して謝罪し、北陸道鎮撮の先鋒を命ぜられ、疾のため代わって一門に藩兵を率いて参加させたが、家臣が彰義隊に党与して忠禄・忠氏は屏居に処せられ、まもなく赦された。忠氏の隠居により再襲封し、

戊辰戦争終・1869＝56歳：_版籍奉還により小浜藩知事となったが、
初の日刊新聞1870＝57歳：_罷め、
支藩鞠山藩(もと敦賀藩)を小浜藩に併合し、同落知事酒井忠経が小浜藩権知事となって継承した。
廢藩後東京に移り、

明治6年政変 1873＝60歳：_没した。